

# 平成28年度事業報告

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

本県の畜産は、県農業産出額（平成27年）の6割を占めるとともに、北海道、鹿児島県、宮崎県に次いで全国第4位の産出額を誇る基幹産業であり、すそ野の広い関連産業を含めて、地域経済に重要な役割を果たしている。

しかしながら、担い手の高齢化・後継者不足により、全国と同様に、農家戸数及び飼養頭羽数の減少傾向が続いている。特に、肉用牛においては、繁殖基盤の縮小に伴い、子牛価格がかつてない高騰を続ける一方で、肥育経営の資金繰りが一層厳しさを増す状況となっている。

このような中、平成28年度については、前年度に参加12か国での合意・署名がなされた環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の本県畜産への影響に危機感を抱きつつ、畜産経営の安定を図り、生産基盤の縮小に歯止めをかけることを第一に掲げ、国がTPP対策として創設した畜産クラスター事業をはじめとする各種事業に取り組んだ。

畜産クラスター機械導入事業については、18協議会の補助金総額が約3億5千万円に上り、畜産農家の負担を軽減しつつ、経営の近代化及び収益性の向上が図られた。

肉用牛肥育経営安定特別対策事業については、もと牛価格が高騰する中、枝肉等級が下位にある交雑種及び乳用種において補填金交付が発動となったほか、日本短角種については、平成28年度から肉専用種の区分から分離して地域算定に移行した効果として補填金交付が実現し、経営安定が図られた。

また、8月に県の北部・沿岸地域に甚大な被害をもたらした平成28年台風第10号対策として、国が新たに創設又は拡充した事業について、県及び関係団体の協力の下に取り組み、被災した畜産農家の経営継続を支援した。

## <重点事項>

- 1 将来を担う経営体を対象とした経営診断・経営技術指導
- 2 地域が連携した収益性の高い経営体の育成支援
- 3 肉用牛肥育経営安定対策の推進
- 4 経営向上効果のある家畜人工授精用凍結精液の安定供給・利用推進
- 5 家畜改良増殖の推進
- 6 地域ぐるみの家畜衛生対策の推進
- 7 精度の高い生乳検査の確保
- 8 第11回全国和牛能力共進会出品対策の推進

## I 実施事業

### 1 継続事業1

畜産振興のための、経営の改善指導・生産技術の向上指導、経営体の育成啓発、家畜改良の推進指導、家畜衛生の向上指導及び畜産物の安全確保指導、調査並びに情報収集及び

提供、家畜生産・家畜改良意欲の増進啓発等に係る事業を実施した。

<経営安定・改善のための診断・助言等に係る事業>

(1) 畜産生産基盤育成強化事業

[県委託：5,352千円]

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営の確立を推進するため、関係機関・団体による経営分析・指導等を行った。

ア 畜産経営技術の総合支援指導

(ア) 個別支援指導の実施 延べ 187件

- ① 経営診断に基づく改善指導 13件
- ② 経営管理技術指導 42件
- ③ 生産技術指導 74件
- ④ フォローアップ指導 58件

(イ) 地域セミナーの開催 5回

イ 畜産経営情報の提供

ホームページに情報掲載(随時)

(2) 畜産特別資金等推進指導事業

[中畜補助：4,305千円]

畜産特別資金借入者の経営を改善するため、関係機関・団体で組織する「畜産特別資金岩手県支援推進協議会」による農家指導等を行った。

ア 融資機関への指導 17回

イ 経営改善計画作成、見直し及び達成に係る指導

(ア) 見直し指導 16戸、3回

(イ) 達成指導 44戸、49回

ウ 借入者の負債残高等経営改善進捗状況調査 8融資機関、97戸

エ 借入者の経営改善計画の定期的実績点検調査 78戸

(3) 地域畜産支援指導等体制強化事業

[地全協補助：12,418千円]

地域畜産の安定及び高度化を図るため、国及び県の主要な畜産振興施策を補う各種事業を実施した。

ア 畜産経営の支援体制強化事業

- ・ 経営診断指導(コンサルティング) 187戸、地域セミナー 5回ほか
- ・ 酪農・肉用牛担い手女性研修(女性の集い) 1回
- ・ 乳質改善指導 376戸(ミルクシステム診断に合わせて実施)
- ・ 乳用牛群検定推進に係る成績取りまとめ等 14検定組合

- ・ 研修会及び会議等への参加及び情報提供等 37回
- ・ 家畜生産農場清浄化促進啓発事務
- イ 地域畜産の活性化に資する事業
  - ・ 県域及び地域の家畜共進会支援 39地域
  - ・ 畜産関係情報の提供及び普及啓発 要覧作成、ホームページ更新（随時）
- ウ 馬事普及啓発の推進体制強化事業
  - ・ 競馬場（水沢）における畜産フェア 畜産物加工品配布 400人分
  - ・ 競馬冠レース優勝者への副賞（いわて牛）授与 2回
  - ・ 馬事イベントへの支援（副賞授与）2回（馬力大会・流鏝馬大会）

（４）畜産・酪農生産力強化対策事業（家畜生産性向上対策）

[中畜委託：939千円]

家畜遺伝能力の最大限の発揮による生産性向上を図るため、生産性に係るデータの収集・分析と技術指導を実施した。

酪農経営 5戸、肉用牛経営 5戸（繁殖 3戸、肥育 2戸）

（５）ミルクシステム診断事業

[独自：6,219千円]

酪農経営における収益性向上のため、ミルクシステム診断及び搾乳指導等を実施した。

ミルクシステム診断 387基、バルククーラー点検 339基

<担い手の強化・育成等に係る事業>

（６）肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策）

[機構補助：6,993千円、預かり補助金89,175千円]

肉用牛の安定生産を確保するため、国の経営安定対策を補完する取組を支援した。

ア 肉用牛生産基盤強化対策

① 中核的担い手育成増頭推進

繁殖雌牛増頭奨励金 7農協、362頭（前年度対比 160.2%）

② 優良繁殖雌牛導入支援

優良雌牛導入・農家貸付奨励金 7農協、184頭（対前年度比 68.9%）

③ 肉用牛ヘルパー推進

肉用牛ヘルパー利用の推進等 5組合

イ 地域の特色のある肉用牛振興対策

① 地方特定品種等の振興

- ・ 特徴ある牛肉生産等 1農協、13集団
- ・ 計画出荷対策 1農協、342頭

② 山振地域における肉用牛振興

- ・ 優良子牛適正出荷推進 3農協、3,169頭

(7) 肉用牛経営安定対策補完事業（災害緊急支援対策）

[機構補助：243千円、預かり補助金3,428千円]

平成28年台風第10号により被災した生産者の経営継続を図るため、被災施設の改修等に対して支援を行った。

- ・ 牛舎等補改修 1施設
- ・ 緊急避難費用支援 1戸（4か月）
- ・ 繁殖雌牛導入支援 1戸（2頭）

(8) 粗飼料確保緊急対策事業

[機構補助：953千円、預かり補助金1,986千円]

平成28年台風第10号により自給粗飼料が収穫不能等になった生産者の経営継続を図るため、代替粗飼料の確保に対して支援を行った。

- ・ 代替粗飼料購入1kg当たり5円の補助 34戸、約400t
- ・ 対象市町：久慈市、宮古市、岩泉町、葛巻町、洋野町

<地域が連携した畜産振興等に係る事業>

(9) 畜産クラスター機械導入事業（窓口団体事務）

[中畜委託：5,601千円]

畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち機械導入事業について、本県の窓口団体としての事務を行った。

ア 平成28年度事業分

18協議会、要望額783,079千円に対して配分額348,360千円（44.5%）

イ 平成29年度事業分

15協議会、要望額364,635千円に対して配分額165,570千円（45.4%）

(10) 畜産クラスター全国推進事業（全国実態調査）

[中畜委託：400千円]

畜産クラスターの取組を推進するため、先進的経営体等を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 5戸

<家畜改良の推進等に係る事業>

(11) 酪農経営支援総合対策事業（乳用牛能力向上）

[機構補助：36千円、預かり補助金14,482千円]

乳用牛の改良促進と酪農経営の所得向上に資するため、乳用牛群検定組合が行う生産寿命・繁殖成績向上計画の策定及び肢蹄状況のデータ収集等に支援を行った。

実施対象 14検定組合

#### (12) 乳用牛群検定情報分析センター機能向上事業

[県委託：500千円]

乳用牛群検定で得られたデータを有効活用するため、情報を収集・分析し、検定組合への提供等を行った。

巡回指導 14検定組合

#### (13) 馬の改良増殖推進事業

[地全協補助：1,284千円]

農用馬の改良及び生産振興を図るため、奨励金の交付等を行った。

##### ア 優良種雄馬繁殖奨励

種付奨励金 種雄馬 7頭、種付頭数 52頭、交付額 490千円

##### イ 子馬生産奨励

生産奨励金 種雌馬 29頭、交付額 788千円

#### <家畜衛生の普及推進等に係る事業>

#### (14) 家畜防疫互助基金支援事業

[機構補助：3,533千円]

口蹄疫、豚コレラ等発生時の経済的損失を、生産者が互助補償する体制整備のため、互助基金制度の周知と加入促進を行った。

##### ア 推進会議 1回

##### イ 加入実績（括弧内は加入率）

乳用牛 614戸（61.4%）、32,578頭（74.7%）

肉用牛 3,133戸（64.5%）、66,288頭（74.0%）

豚 51戸（40.2%）、278,405頭（69.3%）

#### (15) 自衛防疫体制強化推進事業

[家畜衛生対策推進協議会委託：2,250千円]

地域の自衛防疫体制を強化するため、防疫演習を開催するとともに、慢性感染症清浄化対策を実施した。

##### ア 検討会等の開催

検討会 2回、防疫演習 2回

##### イ 慢性感染症対策

牛白血病 1戸、牛マイコプラズマ乳房炎 6戸

ウ 飼養衛生管理基準啓発推進対策  
啓発用資料作成配布 500部

(16) 飼養衛生管理基準等緊急啓発普及促進事業

[中畜委託：274千円]

家畜伝染病の発生予防対策を強化するため、平成28年度に改正された「飼養衛生管理基準」(家畜伝染病法第12条の3)について、説明会を開催し、周知徹底を図った。

各種会議等における説明又は資料配布

乳用牛 1回、肉用牛 2回、養豚 1回、農用馬 2回

(17) 衛生体制強化基金事業

[中畜補助：109千円]

予防接種事業を効果的に推進するため、地域推進会議における助言指導を行った。

ア 地域推進会議 4回

イ アカバネ病予防啓発リーフレット作成配布 2,240部

(18) 馬飼養衛生管理特別対策事業

[中畜委託：470千円]

馬の飼養環境の脆弱化による飼養衛生管理技術レベルの低下を防ぐため、衛生管理に係る講習会の開催等を行った。

ア 委員会等の開催

委員会 1回、講習会 1回、基礎技術実習 1回

イ 実態調査

83戸

(19) 育成馬等予防接種推進事業

[中畜補助：179千円]

馬伝染性疾病の発生を防止するため、計画的な予防接種（日本脳炎、破傷風及び馬インフルエンザ）を推進した。

日本脳炎 22頭、破傷風 29頭、馬インフルエンザ 34頭

(20) 馬伝染性疾病防疫推進対策事業

[中畜委託：576千円]

馬インフルエンザ及び馬鼻肺炎の防疫対策として、農用馬等へのワクチン接種を推進した。

馬インフルエンザ 75頭、馬鼻肺炎 24頭

(21) 馬インフルエンザ等防疫強化特別対策事業

[中畜委託：67千円]

馬伝染性貧血等の清浄化のため、馬飼養農家を対象として、馬の飼養状況及び馬伝染性貧血に係る検査の実施状況等について調査を行った。

調査対象 83戸、回答33戸（回収率39.8%）

(22) 豚流行性下痢（PED）まん延防止体制支援促進事業

[中畜委託：736千円]

豚流行性下痢の防疫に資するため、推進会議を開催するとともに、農家の衛生指導を行った。

推進会議 1回 衛生指導 16戸（2回）

(23) 農場HACCP認証審査体制基盤緊急整備事業

[中畜委託：715千円]

農場HACCPの普及を推進するため、認証制度説明会の開催及び認証農場の調査を行った。

説明会 1回 認証農場成果検証調査 2戸

(24) 農場HACCP認証支援地域強化促進事業

[中畜委託：320千円]

農場HACCPの普及に資するため、推進会議等を開催した。

推進会議 2回 研修会（県北家畜保健衛生所管内生産者等対象）1回

(25) 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業

[農水省補助：2,068千円、預かり補助金10,456千円]

死亡牛の適正な処理とBSE検査の円滑な実施を推進するため、処理に要する費用への補助を行った。

48か月齢以上の死亡牛 2,287頭

(26) 死亡牛処理円滑化推進事業

[県委託：344千円、預かり補助金13,784千円]

県南地域化製場の操業停止に伴い、死亡牛処理等費用が増嵩する農家の負担を軽減するため、補助を行った。

対象死亡牛 1,661頭

<技術研鑽・生産意欲増進等に係る事業>

(27) 家畜共進会開催事業

[県補助：1,050千円、独自：973千円]

県内畜産農家の家畜改良意識の向上と相互研鑽の場を提供するため、岩手県畜産共進会として、全県を範囲とする畜種別の共進会を開催した。ただし、9月1日及び9月2日にそれぞれ開催を計画していたホルスタイン種の部及び日本短角種の部については、8月30日に県の北部・沿岸地域に甚大な被害をもたらした台風第10号への対応を優先せざるを得ない状況となったため中止した。

部 門	期日	出品頭数	会 場
黒 毛 和 種	7月28日	72頭	JA全農いわて中央家畜市場
ホルスタイン種	中止		
日 本 短 角 種	中止		
馬	9月9日	10頭	馬っこパーク・いわて
肉牛（黒毛和種）	10月22日	94頭	株式会社岩手畜産流通センター

<畜産に係る調査、情報収集及び情報提供等に係る事業>

(28) 「岩手の畜産」発行事業

[独自：1,552千円]

畜産農家及び畜産関係機関・団体に、畜産経営に有用な情報を提供するため、会報「岩手の畜産」を発行した。

年6回奇数月発行 発行部数 1,300部

(29) 乳用種初生牛の経営に関する調査事業

[中畜委託：300千円]

畜産振興施策の基礎資料を得るため、乳用種初生牛の生産費等の調査を行った。

酪農経営 15戸

(30) 畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業

[畜産近代化リース協会委託：1,308千円]

畜産近代化リース協会貸付事業により導入された施設・機械の適正利用を確保するため、物件確認と管理状況調査等を行った。

調査物件数 83件 リース事業周知 14回

(31) 公庫資金活用推進事業（地域農業支援）

[日本政策金融公庫委託：100千円]

畜産経営の改善に資するため、会議等において、公庫資金に係る情報を提供し、活用



を推進した。

### (32) 畜産技術指導促進事業

[独自：351千円]

研修会、会議、共進会等において、畜産技術情報の提供等を行った。

会議等 29回、指導等 8回

### (33) 図書支援事業

[独自：473千円]

畜産の知識・技術の普及啓発資するため、公益社団法人中央畜産会が発行する月刊誌「畜産コンサルタント」等の書籍の斡旋配布を行った。

畜産コンサルタント 423部

## 2 継続事業2

### 肉用牛肥育経営安定対策事業

#### (1) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業

[機構補助：1,547,968千円、生産者等492,326千円、手数料：14,171千円]

肉用牛肥育経営の安定を図るため、肥育牛1頭当たり平均粗収益が平均生産費を下回った場合に、生産者の拠出（生産者積立金）と機構の補助により造成した基金から、粗収益と生産費との差額の8割を補填金として交付する等の事務を行った。

なお、平成27年度まで肉専用種の区分で取り扱われてきた日本短角種については、平成28年度から、生産者積立金及び補填金単価を独自に設定する地域算定方式に移行した。

これに合わせて、(2) 日本短角種肥育経営安定特別対策事業は、生産者積立金への補助を行う事業に移行した。

#### ア 肥育安定基金造成

品種区分	生産者積立金	機構補助	計
肉専用種	136,580千円	413,790千円	551,370千円
交雑種	274,600千円	829,800千円	1,104,400千円
乳用種	46,180千円	138,540千円	184,720千円
日本短角種	33,966千円	153,513千円	187,479千円
計	492,326千円	1,535,643千円	2,027,969千円

※ 日本短角種の生産者積立金には、(2) 日本短角種肥育経営安定特別対策事業による県等の補助金14,301千円が含まれている。

[基金造成単価]

品種区分	平成27年度	平成28年度	備考
肉専用種	※ 40,000円	40,000円	負担割合 生産者：1/4 機構：3/4
交雑種	100,000円	100,000円	
乳用種	68,000円	104,000円	
日本短角種		148,000円	

※ 平成27年度の肉専用種には、日本短角種が含まれる。

イ 補填金交付

品種区分	対象頭数	交付額
肉専用種		
交雑種	748頭	4,637,600円
乳用種	1,211頭	40,016,600円
日本短角種	111頭	1,658,500円
計	2,070頭	46,312,700円

[補填金発動状況と1頭当たり補填金額]

(単位：円)

月	肉専用種	交雑種	乳用種	日本短角種	月	肉専用種	交雑種	乳用種	日本短角種
4				13,100	10			45,300	
5					11		6,200	51,500	
6					12			61,100	
7			17,800		1			72,100	23,300
8			26,800		2		30,700	75,200	17,600
9			47,000		3		39,000	70,700	13,800

ウ 事業推進

担当者会議開催 1回

事務委託先等指導 22回

エ 肥育安定基金残額の返戻（無事戻し）

平成27年度末で第2業務対象年が終了したことに伴い、肥育安定基金残額について、造成割合に応じた返戻を行った。

返戻金総額 4,130,045,481円

(2) 日本短角種肥育経営安定特別対策事業

[県等補助：14,301千円]

(1) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業における日本短角種が、平成28年度から、生産者積立金及び補填金単価を独自に設定する地域算定方式に移行し、これに伴って生産

者積立金単価が大幅引上げ（10千円⇒37千円）となることから、生産者の負担を軽減するため、県、市町及び農業協同組合からの補助を受けて、生産者積立金への補助を行った。

ア 生産者積立金への補助

区 分	金 額	備 考
岩 手 県	7,298,250 円	1頭当たり補助単価：18,500円 負担割合：県1/2、市町1/4、農協1/4
市 町	3,649,125 円	
農 業 協 同 組 合	3,353,125 円	
計	14,300,500 円	

イ 業務対象年間終了に伴う基金残額の返戻（無事戻し）  
返戻金総額 35,741,019円

3 継続事業3

家畜自衛防疫事業

[農水省補助：12,425千円、独自：200,400千円]

(1) 家畜生産農場清浄化支援対策事業

[農水省補助：12,425千円]

家畜生産農場における家畜伝染病等の清浄化及びまん延防止のため、同居牛のとう汰や組織的な予防接種等を推進した。

ア ヨーネ病防疫推進

自主とう汰奨励金 5戸11頭

イ オーエスキー病清浄種豚流通促進対策

抗体検査 4,913頭

ウ 伝染病の発生・流行防止対策

アカバネ病予防接種 45,632頭

エ 牛白血病対策

講習会開催 1回、清浄化推進農場抗体検査 4戸269頭

オ 牛ウイルス性下痢・粘膜病対策

講習会開催 1回、自主とう汰奨励金 5戸7頭、ワクチン接種 1戸24頭

(2) 家畜自衛防疫推進・支援事業

[独自：200,400千円]

ア 予防接種推進事業

家畜伝染性疾病の発生を予防するため、地域ぐるみのワクチン接種を推進した。

ワクチンの種類	頭数（括弧内は前年度対比）
牛 5 種 混 合（ 生 ）	7,464頭（ 67.7%）
牛 5 種 混 合（ 不 活 化 ）	6,391頭（112.7%）
牛5種混合(生)+ヘモフィルス	16,815頭（134.5%）
牛 6 種 混 合（ 生・ 不 活 化 ）	3,629頭（123.5%）
牛 6 種 混 合（ 生 ）	734頭（ 82.7%）
牛 ヘ モ フ ィ ル ス	5,556頭（ 60.8%）
豚 丹 毒（ 生 ）	96,717頭（ 92.8%）
豚 丹 毒（ 不 活 化 ）	37,340頭（ 98.8%）

## イ 家畜伝染性疾病緊急防疫対策事業

家畜伝染性疾病の発生による被害を最小限とするため、初期の迅速な防疫活動に要する経費に補助を行った。

ヨーネ病 3件、サルモネラ症 4件、牛ウイルス性下痢・粘膜病 6件  
補助金交付総額 1,694千円

## II その他事業

### 1 その他事業1

#### 家畜人工授精用精液流通調整事業

[独自：79,387千円]

本県の肉用牛及び乳用牛の改良増殖を推進するため、サブセンターを通じて、家畜人工授精用凍結精液等の供給を行った。（括弧内は前年度対比）

#### (1) 凍結精液等の供給

ア 凍結精液 111,599本（102.5%）

内訳：肉用牛 71,646本（100.0%）、乳用牛 39,953本（107.2%）

イ 受精卵 877個（115.2%）

内訳：肉用牛 777個（116.3%）、乳用牛 100個（107.5%）

ウ 液体窒素 53,408kg（98.9%）

#### (2) 経営効果の高い精液の利用推進

家畜人工授精担当者の知識・技術の研鑽と農家への助言・指導力の向上を目的として、会議等を開催した。

ア 国産種雄牛新規情報提供会議 1回

イ 県外視察研修 1回

ウ 人工授精担当者会議 1回

#### (3) 供給精液の受胎状況調査

授精技術及び受胎率の向上等を目的として、供給精液の受胎状況調査を行った。

## 2 その他事業2 家畜登録事業

[独自：41,852千円]

本県で飼養される乳用牛及び豚の改良を促進するため、家畜登録事業の活用を推進した。

### (1) 家畜登録等の件数（括弧内は前年度対比）

ア 乳用牛 9,149件（105.2%）

内訳：血統登録 5,491件、牛群審査 1,276件、牛群検定成績証明 787件、移動・その他 1,595件）

イ 豚 3,824件（140.1%）

内訳：種豚登録 996件、子豚登記 2,369件、移動その他 451件、農場認定 8件

### (2) 登録関係研修会等への参加

研修会等への参加により、登録関係実務能力の向上を図った。

- ・ 平成28年度東北地区登録委員研修会
- ・ 平成28年種豚登録講習会
- ・ 冬期登録事務担当者会議

## 3 その他事業3 生乳検査事業

[独自：119,992千円]

東北地域の農業協同組合等からの委託又は依頼を受けて、生乳取引等に係る生乳検査を実施した。

### (1) 検査実績（括弧内は前年度対比）

ア 生乳取引関係 543,060,771kg（98.7%）

イ 牛群検定関係 533,804件（99.0%）

ウ 依頼試料乳

（ア）成分及び体細胞数検査 30,391件（129.8%）

（イ）細菌数検査 13,915件（185.3%）

### (2) 検査項目

ア 成分

脂肪率、蛋白質率、乳糖率、無脂乳固形分率、全固形分率、乳中尿素態窒素

イ 体細胞数

ウ 細菌数

#### 4 その他事業4

##### (1) 研修事業

関係機関・団体が行う研修会等への職員派遣を通じて、最新の技術・知識の修得と協会における業務遂行能力の向上を図った。

###### ア 職員技術研修事業

[独自：294千円]

派遣等 7名

###### イ 北海道・東北ブロック畜産協会職員研修事業

[独自：159千円]

参加 8名

##### (2) 畜産理解促進事業

競馬場等、市民が集う場所・催事において、畜産物の配布等を行い、畜産への理解を促進した。あわせて、地方競馬の活性化を支援した。

###### ア 岩手競馬支援特別対策事業

[独自：312千円]

###### (ア) 冠レースでの会長賞授与

第39回すずらん賞（7月・盛岡）及びひいらぎ賞（11月・水沢）

###### (イ) ファン感謝デーにおける県産畜産物加工品配布

400個配布（11月・水沢）

###### イ 畜産関係団体調整機能強化事業

[中畜委託：250千円]

###### (ア) 冠レースでの会長賞授与

ビギナーズカップ（9月・水沢）及びもみじ賞（10月・盛岡）

###### (イ) 畜産フェアにおける県産畜産物加工品配布

500個配布（10月・盛岡）